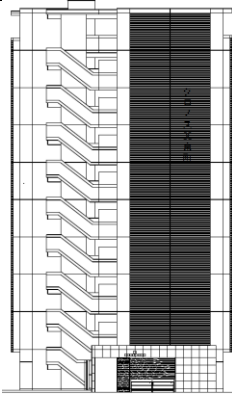


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

				■ 外観
建物名称	(仮称)京町本丁M新築工事	階数	地上10F	
建設地	熊本市中央区京町本丁67、68-2、68	構造	RC造	
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	0 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2017年10月16日	
敷地面積	679 m ²	作成者	上村	
建築面積	334 m ²	確認日	2017年10月17日	
延床面積	2,448 m ²	確認者	伊東	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★

★★★★★

★★★★★

★★★★

★★★

環境品質 Q

100

50

0

0

50

100

環境負荷 L

3.0

1.5

BEE=1.0

S

A

B⁺

B⁻

C

41

1.0

41

■ ライフサイクルCO₂

☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆

★★★★

★★★

★★

★

BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

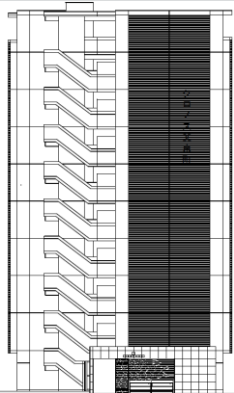
88%

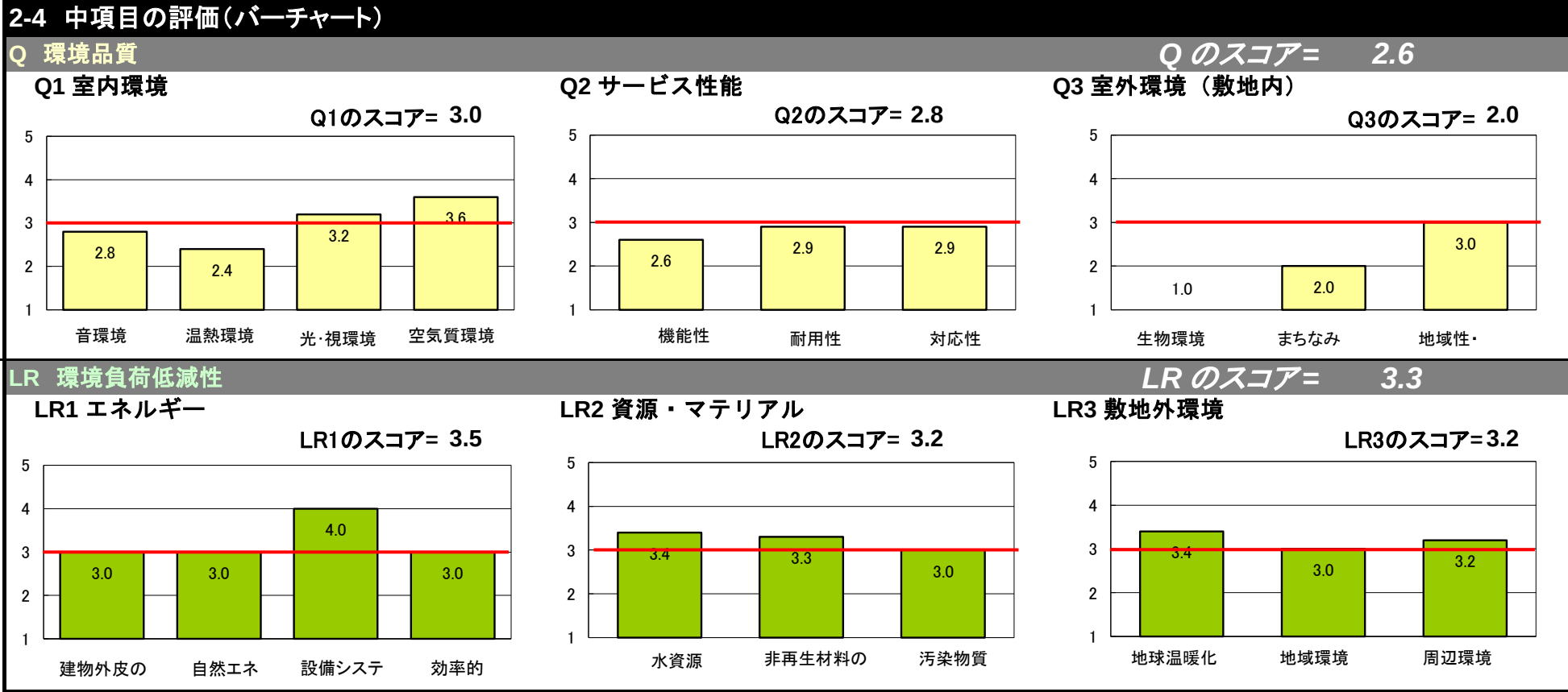
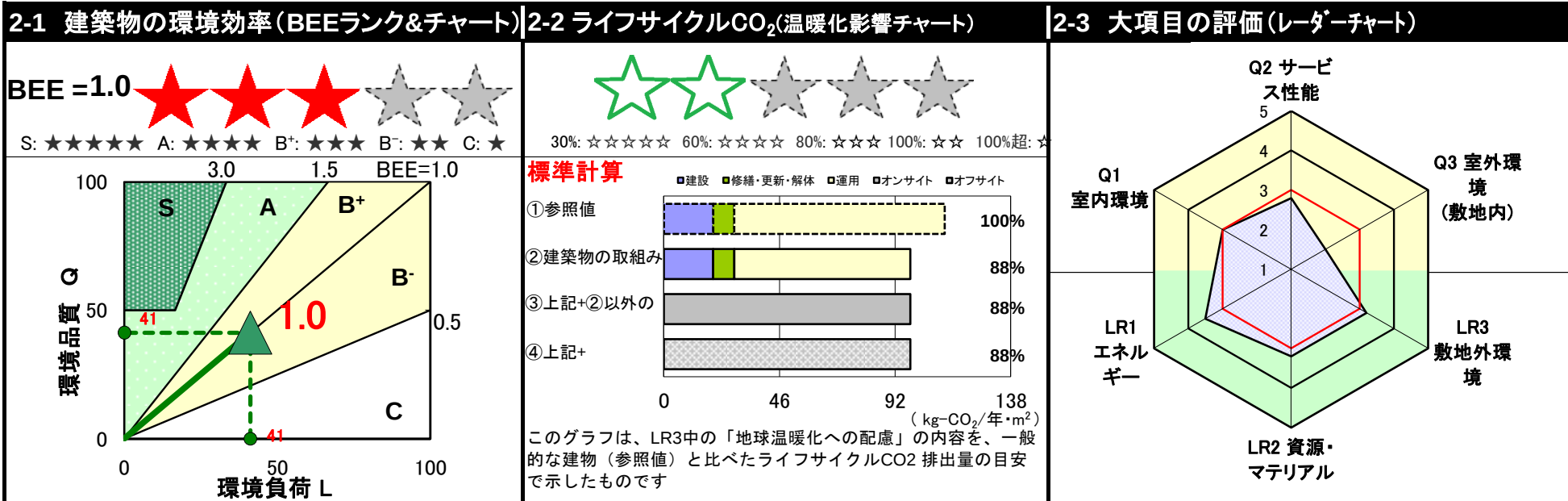
2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価		評価点												
		76												
	評価点	■熊本県重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	78.7	<table><tr><th>判定値(評価点)</th><th>ランク表示</th></tr><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	67.5													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	77.5													
【重点事項4】 循環型社会の実現	77.2													
※評価点は、100点以上が推奨です。														

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)京町本丁M新築工事	階数	地上10F		
建設地	熊本市中央区京町本丁67、68-2、68	構造	RC造		
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	87 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2017年10月16日		
敷地面積	679 m ²	作成者	上村		
建築面積	334 m ²	確認日	2017年10月17日		
延床面積	2,448 m ²	確認者	伊東		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)京町本丁M新築工事■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.6	
Q1 室内環境					0.40		-	3.0	
1 音環境				2.0	0.15	3.2	1.00	2.8	
1.1	室内騒音レベル	(共用部)ホール:50dB(A) (住居部)住戸:40dB(A)		3.0	0.50	4.0	0.50		
1.2	遮音			1.0	0.50	2.4	0.50		
1	開口部遮音性能			1.0	1.00	1.0	0.30		
2	界壁遮音性能			-	-	3.0	0.30		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	3.0	0.20		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	3.0	0.20		
1.3	吸音			-	-	-	-		
2 温熱環境				1.0	0.35	3.0	1.00	2.4	
2.1	室温制御			1.0	0.50	3.0	1.00		
1	室温			1.0	0.63	-	-		
2	外皮性能			1.0	0.38	3.0	1.00		
3	ゾーン別制御性			-	-	-	-		
2.2	湿度制御			1.0	0.20	-	-		
2.3	空調方式			1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.3	0.25	3.6	1.00	3.2	
3.1	昼光利用			1.8	0.30	4.0	0.30		
1	昼光率	(共用部)ホール:0.33% (住居部)Aタイプ洋室2:3.25%		1.0	0.60	5.0	0.50		
2	方位別開口			-	-	3.0	0.30		
3	昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2	グレア対策			2.0	0.30	4.0	0.30		
1	昼光制御	(共用部)底により制御 (住居部):カーテン・底(バルコニー)の設置		2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3	照度			3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4	照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.6	0.25	3.6	1.00	3.6	
4.1	発生源対策			4.0	0.60	4.0	0.63		
1	化学汚染物質	F☆☆☆☆を採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2	換気			3.0	0.40	3.0	0.38		
1	換気量			3.0	0.50	3.0	0.33		
2	自然換気性能			-	-	3.0	0.33		
3	取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3	運用管理			-	-	-	-		
1	CO ₂ の監視			-	-	-	-		
2	喫煙の制御			-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.8	
1 機能性				2.7	0.40	2.6	1.00	2.6	
1.1	機能性・使いやすさ			3.0	0.40	3.0	0.60		
1	広さ・収納性			-	-	-	-		
2	高度情報通信設備対応			-	-	3.0	1.00		
3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-		
1.2	心理性・快適性			1.0	0.30	2.0	0.40		
1	広さ感・景観			-	-	3.0	0.50		
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-		
3	内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3	維持管理			4.0	0.30	-	-		
1	維持管理に配慮した設計	①なし②なし③適度な水使用可(長尺ビニールシート)④ホコリの溜まりにくい設計⑤風除室扉間1m以上確保⑥一室で異なる床材の使用なし⑦なし⑧なし⑩防錆処理⑪極力段差のない動線⑫なし		4.0	0.50	-	-		
2	維持管理用機能の確保	(特定建築物に該当しない)①なし②なし③ゴミ置場に適当な勾配を計画④ゴミ置場設置⑤なし⑥共用部にコンセント設置⑦給排気口・ガラスの安全な維持管理作業⑧各排水清掃可⑨必要機器、操作容易な位置⑩なし⑪諸設備、共用部維持管理可(MB)⑫なし		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1	耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-		
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-		
2.2	部品・部材の耐用年数			2.9	0.30	-	-		
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.20	-	-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			2.0	0.10	-	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上を使用しEは不使用		5.0	0.20	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.20	-	-		
2.4	信頼性			2.8	0.20	-	-		
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-		
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-		
3	電気設備			3.0	0.20	-	-		
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-		
5	通信・情報設備			2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				3.4	0.30	2.8	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり			仕上り材を痛めることなく、更新・修繕可 仕上り材を痛めることなく、更新・修繕可	-	-	2.6	0.50	
1	階高のゆとり	-		-	3.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	-		-	2.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.4	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0		0.20	-	-		
2	給排水管の更新性	3.0		0.20	-	-		
3	電気配線の更新性	5.0		0.10	-	-		
4	通信配線の更新性	5.0	0.10	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.0
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.90	4.0	0.50	-	-	4.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ、節水型便器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
2			雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			壁・天井・木下地	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1			消火剤	-	-	-	-	
2			発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
3			冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			LED照明の採用	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
1			雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
2			汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3			交通負荷抑制	4.0	0.25	-	-	
4			廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1			騒音	3.0	1.00	-	-	
2			振動	-	-	-	-	
3			悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1			風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
2			砂塵の抑制	-	-	-	-	
3			日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周囲の景観と調和するように、シンプルかつ落ち着いた雰囲気の外観デザインを心掛けた。建築物を中高層(10F)にし、廻りの空間をできるだけ確保するように努めた。

Q1 室内環境

F☆☆☆☆建材を採用し、化学汚染物質被害を防止した。

Q2 サービス性能

将来の更新を想定し、全室ビニルクロスを採用した。

Q3 室外環境（敷地内）

外壁材の彩度を落したデザインとし、周囲への太陽光の反射やグレアの軽減を図った。

LR1 エネルギー

射遮蔽性を図り、断熱性能を高めるよう、ベランダの奥行を広く計画した。

LR2 資源・マテリアル

断熱材はすべて代替フロンとした。

LR3 敷地外環境

適切な数の駐車駐輪スペースを計画し、周辺交通負荷軽減に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)京町本丁M新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	76
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				78.7	0.40	31.48
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				77.5	0.20	15.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				77.2	0.20	15.44
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.9	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数